

114  
A2029

八二一

地租改正後毎期地價調査規則

第一條

地租改正後地價据置年限  
即五ヶ年  
初期ト称ス  
尔後、年限ハ第何期ト称スヘシ

第二條

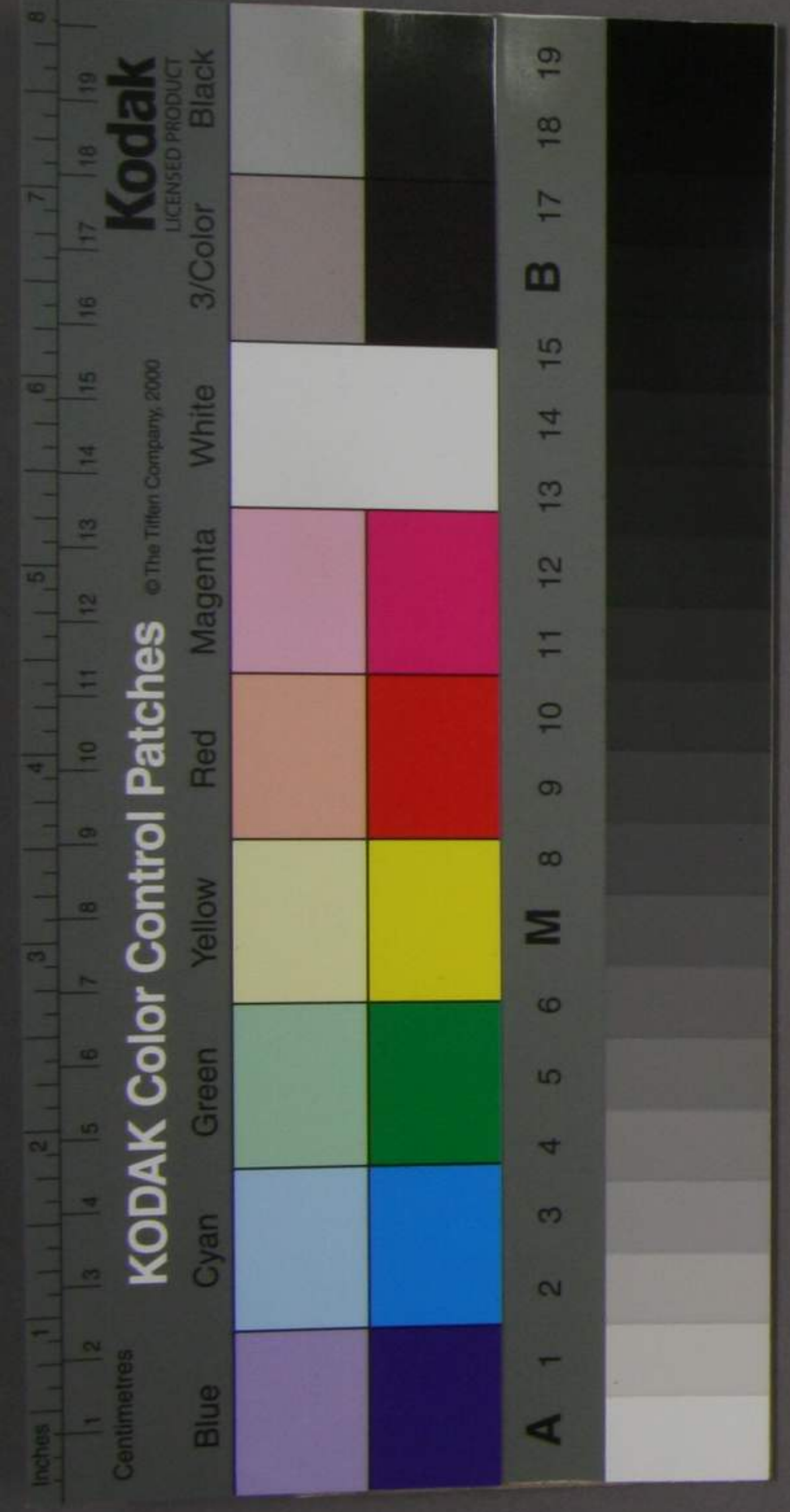
第二期以降ハ十ヶ年年間ヲ以テ一期ト定メ毎  
期、初メノ实况ニ就テ更ニ地價ヲ調査スヘキニ  
トス

但一期間ノ荒地清シ地起返リ及ヒ調整年期  
期ケ或ハ官地私ト等其時ハ地價ヲ調査スル  
モ、ハ該一期ノ部分ニ属ス

第三條

大  
大  
段  
正  
寄  
贈  
月  
戸  
時

住  
谷



一 期間ハ荒地債シ地ヲ除クノ外地況ノ変遷賣  
買係ノ昇降等ニ係ハラズ該期査定スル可ノ地  
價振置タルヘシ

但田畑宅地等ノ地目ヲ変換シ地價振置  
ノハ其年毎ニ主務ノ官吏実地ヲ点検シテ帳  
簿因面ヲ整理シ置ヘキヲ緊要トス

地目ヲ変換スルモノハ点検ノ上三ヶ月毎ニ  
租税局ヘ開申スヘキ旨最ニ大藏卿總裁連署  
ヲ以テ府縣ニ達セラレタレバ實際行ハレ難  
シ但書ノ如ク更正ヲ望ム

第四條

地押丈量ハ既ニ前期調査ヲ任シモノナルカ故  
ニ期明ケ毎ニ一般ノ検査ヲナスニ及ハズト雖

此主務ノ官吏各郡村ヲ巡視シ検査ヲ要スルト  
視認ルモノハ更ニ実地ニ就キ正否ヲ検査スハ  
キモノトス

第五條

差ノ最前ノ地押丈量疎漏ニ失シ地目錯乱及別  
伸縮アル部々ヲ期明ケニ際ニ發見官保ト検査  
ルノ實際ハスル時ハ更ニ地主ニ地押丈量ヲ  
十廿シノ主務ノ官吏検査ノ上地目及別收穫地  
價ヲ改定前期期ニ改定ニ止メスヘキモノトス  
但欺隱田糧ニ係ルモノハ此限ニアラズ

第六條

前期査定ノ各地收穫地價換期ニ於テ増減ヲ要  
スルモノハ勿論増減ヲ要セサルモノト雖此

リ地之ヨリ開申セシメ主務ノ官吏当否検査ノ  
上適當ニ之ヲ定ムヘシ

第七條

渾テ地價ハ收穫ヲ根拠トシ前期算計ノ方法ニ  
準シテ調定スヘキモノトス

第八條

第二期以降地價調査ニ用フヘキ米麦大豆價ハ  
該期前十ケ年ノ價格ヲ計算シ其中最昂ト最低  
ノ二ケ年ヲ除キ残ルハケ年ヲ平均シテ準據ト  
スヘキモノトス

ハケ年平均シテ直ラニ調査米價ト定ムル時  
ハ甲縣乙縣トノ比較上或ハ權衡ヲ失スルノ  
恐レナシトセズ故ニハケ年平均ヲ準據トシ

場合ニ依テハ徵分ノ酌量ヲナスラ得ルモノ  
ト定メ置カレタシ改租ノ当初ニハ米價平均  
ノ方法ヲ政府ヨリ人民、公示セラレズト難  
氏地方官ヨリ人民、布達或ハ區々長近差示  
シタリ第二期以降ハ規則ニ明記セラレラ可  
ナラン

第九條

前期間地目変換地價据置タリシモノハ期別  
ニ至リ実況ニ應ジ近傍類地ニ比準シ相当ノ收  
獲地價ヲ定ムヘキモノトス

第十條

山田 海畔等ニ亘在スル宅地ニシテ他ニ比準シ  
難キモノハ一及ニ付三町ヨリ少ナカラザル地

價

七〇八キモノトス

明治六年七月制定地租改正施行規則第四則  
第一期以降本條ヲ以テ更正ス

改租後令ノ際ハ賣買價ヲ主トスルカ故ニ地

ニ比準シ難キ宅地ハ地價ヲ定メスレテ是及

ニ付拾錢ヨリ大十カラナル稅ヲ定ムルノ規

則ヲ設ケラレタリト雖モ實際ノ調査ハ賣買

價ヲ主トスルニ非ス且各種ノ地目申付リ宅

地ノミ地價ニ據ラズレテ稅ヲ定ムルモノア

リテハ官民ノ取扱不便ヲ免レズ宜レク地價

ヲ定ムルニ然ルニ拾錢稅ヨリ地價ヲ算スレ

三田三拾三錢強ナリト雖モ三田ニ定ムル

ヲ穩當トセンカ

第十一條

前期地價調査整頓專議ヲ經テ決定ノ後右地主  
ヨリ地券ニ由リサシメ左式ノ如ク裏書捺印シテ  
下附スヘキモノトス

裏書式

但手数料等ハ收入ニ及ハス

基帳ノ封印

府縣府

地價若干

明治何  
年第何  
期査定

此地租若干

年月日

府縣府

査定印  
府縣府  
通官彫刻スレ

全上

全

表書ノ地價据置

年月日

全上

一、一般地券ヲ書換フルハ煩ニ堪ヘス稟書  
ルヲ官民ノ使トス然ルニ現今ハ賣買其他  
書換ノ度毎ニ稟書スルノ成規ニシテ書替ヲ  
經シモノハ餘白甚タナシ此稟書ナルモ  
ハ賣買價ヲ記スラ主トスレバ毎期ノ調査ニ  
緊要ト云ニモ非ナ目今此稟書ヲ廢スルモ妨  
ケナカレハシ屆議本案ヲ可ト決セハ賣買書  
替稟書廢止公布案太政官伺共別ニ草稿ヲ起  
スヘシ

地租改正後每期地價調査

地方人心得書

第壹條

地租改正ノ調査當時ニアリテハ至当ト確認セ  
シモノ、中後年ヨリ之ヲ反顧スレハ或ハ彼此  
ノ間異同ナキヲ免レハト虽モ若シ輕忽更正ニ  
降手ニ切リニ損未ニ涉ルカ如キハ其害勝ケテ  
謂フヘカラス故ニ第二期以降ノ調査ハ最實際  
ヲ審按シ前期ノ闕損ヲ彌縫改良スルヲ主義ト  
スヘシ

第貳條

各地收穫地價時期ニ於テ増減スヘキ事由ヲ十

分確認スルモノヲ除ク、外ハ前期査定、額ニ  
据ルヘシ

但耕地々價ハ米麦大豆價、昇降著ルシキ  
依リテ増減ヲ求メスハ勢ノ止ム可カラザル  
モノタリ故ニ前期査定ノ耕地々位当否ハ  
トシテ收穫ニ據リ考量スヘシ

第三條

每期改良スヘキモノヲ大別スル時ハ尤ノ如シ

第一 地所ノ脱漏或ハ重複

第二 地目ノ錯乱及ヒ变换

第三 反別ノ伸縮

第四 地位ノ変遷

第五 收穫ノ異同

第七 米麦大豆價ノ昇降

第八 地價ノ多寡

第四條

地所ノ脱漏或ハ重複地目ノ錯乱及ヒ反別ノ伸  
縮等既ニ叢頭スルモノハ其時々訂正シ地目ノ  
变换前期間ノハ其年々整理スヘキモノタリト  
虽モ猶遺漏ナキヲ要スルタメ期明々ニ際シ一  
般ニ就テ之ヲ審理スヘシ

第五條

前期査定ノ收穫異同アルモノヲ改良スルハ景  
難事タリ譬ヘハ甲地乙地ノ比較權衡ヲ失スル  
モノ其改良宜ニキヲ得ザル時ハ丙丁戊己ノ地

ニ際限ナリ波及シ終ニ收拾スヘカラサルニ至  
ルハレ調査ノ際最モ注意ヲ要ス

第六條

第二期以降地價調査ニ用フヘキ米麦大豆價ハ  
前期調査ニ用ヒタル相場立ノ基所墨所ヲ改定  
由テ其申不ヘシ前其事ニ就キ該期前十年間末  
大豆ハ其年十一月一日ヨリ翌年二月廿八日ハ  
十年ハ二月マテ麦ハ其年五月一日ヨリ八月三十一  
日マテ上中下品ノ相場ヲ年々平均シ其中最昂  
價一年ト最低價一年トヲ除キ残ルハ今年ヲ平  
均シモ区域ハ各区域調査ノ限額ヲ異ニスル  
任テ之ヲ定メ人民ヘ布達スヘシ  
但此改正以前係ニ係ル年間ニシテ本年魚月日

ノ米麦大豆價ヲ調理シ給ハサル事由アルモ  
ノハ其年間ニ限り貢米石代納相場時間ノ  
平均ヲ用ヘシ

地租改正当初ノ検査米價貢米石代納相場立  
時間ノ平均ヲ用ヒタルハ他ニ徴スルモノ少  
ナク止ムヲ得サルニ依ル第二期以降ハ本條  
ノ如ク更正ヲ望ム

第七條

前期地價査定ノ後地價ニ課スル地租郡村費ノ  
率ヲ減セラル、時ハ自カラ地價ハ昇ルヘキノ  
理ヲリト余比實際ヲ酌量シ之カ為メ俄カニ地  
價ヲ増加スルヲ須ヒス逐次課率ヲ減ラレ地  
場方法ヲ達スハ別ニ調査救ニ耕地々價調査ニ用

フ、利子ハ、歳期ノ、收穫及ヒ米麦大豆價ヲ以テ  
前地ノ利子算則ニ據リ求ル所ト同敷ノ地價ヲ  
得ルヲ導據トスハ、今仮ニ第二期調査ノ比例  
ヲ掲クルカ、如シ

自作地之例

一 田 壹反歩

此收穫米貳石

内米三斗

残米壹石七斗

代金八圓五拾貳

但 壹石ニ付  
金五圓積

種物肥代定率  
壹割五分引

五八拾五貳

地租三分ノ一郡  
村費引

金四拾貳貳五厘

地租五分ノ一郡  
村費引

金拾圓五拾五貳

地價百分ノ三  
地租引

金拾圓拾貳五厘

地價百分ノ貳分半  
地租引

小計

金三圓四拾貳

金貳圓五拾五

残

金五圓九拾五

金五圓九拾五

此地價

金八拾五圓

金八拾五圓

初期調査法  
六卜利

第二期調査法  
七卜利

地租改正事務局



小作地之例

一田壹反歩

此收穫米石

此小作米壹石三斗六升

代金六円八拾弍

内

金八拾五弍

金四拾弍弍五重

金拾四五拾弍弍

金拾四拾弍弍五重

但 壹石二升  
五斗積

地租三斗一郡  
村費引

地租五斗一郡  
村費引

地價百分三  
地租引

地價百分二  
地租引

小計

金三四拾弍

金拾四拾弍弍

残

金三四拾弍

金四拾拾弍

此地價

金八拾五

金八拾五

初期調査法  
四卜利  
第二期調査法  
五卜利

第八條

前期地價調査ノ利子ニ著ルシク 権衡ヲ失スル  
モノアリテ 前条ノ方法ニ據リ 難ク多クノ雨量  
ヲ要スル時ハ 一般整理ニ至ラサル以前其事由

地租改正事務局



第十條

每村地主戸長主會敷地押ヲ十廿レメ前期間ノ  
变换地目ヲ更正シ圖面帳簿古地目及別ヲ整理  
セシムヘシ

第十一條

地押ニ際シ既漏重複地目ノ錯乱及別ノ伸縮等  
ヲ突顯シ更正ヲ請求スル時ハ地目及別ヲ改定  
圖面帳簿ヲ更正シテ進達セシムヘシ

第十二條

前期ノ耕地牧養其他各地ノ地價全村括至或ハ  
更正ヲ請求スルト一村中幾分ハ括至或分ハ更  
正ヲ請求スルト又問ハズ洋テ其初メニ方リ請  
求スル者趣ト部分トヲ簡約ニ明記シ一村終地

主連印ヲ以テ開申セシムヘシ

但地租改正ノ為初組合ヲ立若干村連合調理  
セシモノハ其組合村々敷地主連印ヲ以テ開  
申セシメ洋テ該調査上ハ他ノ一村ト同視ス  
ヘシ

第十三條

人民更正ヲ請求スルモノハ地目及別及ヒ前期  
ノ牧養地價等詳細調理一郡限表ヲ制シ検査以  
前ニ届出ヘシ

第十四條

席上ノ調理整フテ後主任官実地ニ派出シ地目  
及別更正ヲ請求スルモノハ每村検査シ其他大  
體ニ就テノ地押丈量ハ一郡或ハ一区域中若干

村 乃土地ノ実況ニ依リ三四ヶ村ヲ選ミ地押ハ一  
村中ノ一字或ハ右字中ノ一都分丈量ハ一村中  
二三ヶ所ヲ検査シ若シ不精歟ナルモノアル時  
ハ近傍敷村ヲモ検査シ更正スヘキ 郡 分ヲ定メ  
地主ニ調ヘ直シテ命シ再應検査ヲ經テ地目及  
別ヲ改定シ而ル後地主ヨリ收穫地價更正調書  
ヲ出サレムヘシ  
但地押ハ家精覈ヲ要スト虽此丈量ニ至テハ  
地租改正着手ノ前後ニ依リ其方法一様ナラ  
サルモノアリ 煩々タル小異同ハ措テ問フ可  
カラス

第十五條

收穫地價全村括至請求ハ一村通觀ノ地景ト一

及平均上トニ就テ検査シ全村更正及ヒ一村中  
ノ更正請求ハ一村通觀上ト内都ノ各地トニ就  
テ検査シ其請求スル所至当ト視認ル時ハ豫メ  
更正スヘキ 願ノ目的ヲ立而ル後更正請求都分  
ノ地主ヨリ一筆限リ收穫地價更正調書ヲ出サ  
レムヘシ

第十六條

實地検査ノ上括至請求ノ地ニシテ更正スヘキ  
更正請求ノ地ニシテ括至ヘキヲ至当ト確認ス  
ルモノアル時ハ最前ノ請求ヲ排テ懇篤説諭ヲ  
加ヒ更正ニ相当ノ間申ヲササレムヘシ

第十七條

地主ヨリ差出ス調書ノ收穫地價検査ノ目的ト

地目丈量事務

逕度アル時ハ實際ヲ審案推究シ地主ノ開申スル所不相当ト確認スルモノハ調へ直シラ命スヘシ

第十八條

收穫地價一村總計上ハ相当ト視認ルモノニシテ内部ノ各地公平ヲ得ナル所アルニ依リ地主協議ノ上其總計ヲ据至内部ノ各地ヲ更正セレテラ惣地主連即ヲ以テ請求スル時ハ之ヲ輕シ一筆限り更正ノ收穫地價ヲ開申セシムヘシ

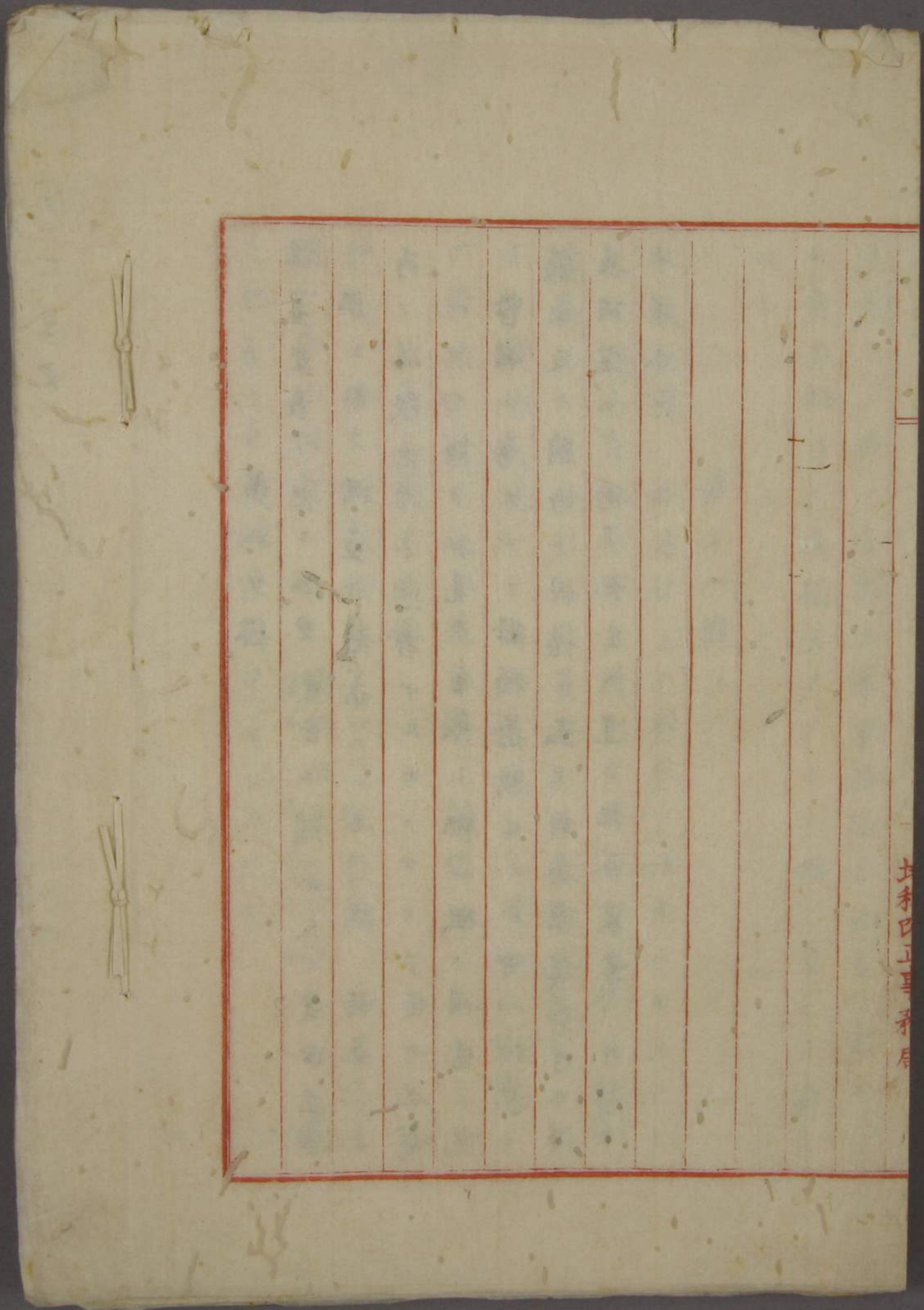
第十九條

耕地ハ價ハ收穫検査了ルノ後該期ノ米麦大豆價ト各地相当ノ利子前期調査ノ利子トニ據リ地主ニ之ヲ調限開申セシムヘシ

第二十條

据至至当ノ地ニシテ更正ヲ請求又ハ更正至当ノ地ニシテ据至ヲ請求スルモノ或ハ開申スル所ノ收穫地價不適当ナルモノアリテ而テ方況倫ヲ及ス~~既~~強テ私見ヲ主張シ他一般ノ調査ハ既ニ整頓ニ屬スルノ際猶兼服セタル時ハ検査ノ巔末及ヒ適当ト視認ル点ヲ詳悉稟議許可ヲ得其決定スル所ヲ地主へ達シ地券裏書ノ手續ヲ了スヘシ

也且文王事務局



共  
和  
國  
上  
海  
市  
立  
法  
院